

熊本地震と医療・教育現場の被災状況

熊本地震 その時阿蘇は！



阿蘇医療センター 院長 甲斐 豊

二〇一六年四月の熊本地震で、被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

当院は、二〇一四年八月に免震装置を備えた災害拠点病院「阿蘇医療センター」としてオープンしていましたが、熊本での大地震を経験したことがない私たちにとって、免震装置がこれほど重要な役割を担うとは思ってもみませんでした。今回の熊本地震発災直後から、当院は免震装置に守られ、全医療機器に被害が出ることなく機能することができました。

電力は非常用電源で、水は浄化機能を備えた地下タンクを備えておいたため、病院の機能、医療水準を低下させることなく、救急受け入れ入院・外来患者への対応が可能でした。

この非常事態を支えるため、職員は丸となりわが身、わが家庭を顧みず、病院の機能維持のため不眠不休の対応を行ってまいりました。心からお礼申し上げます。また、全国各地から多くの応援をいただきました。DMAT（災害派遣医療チーム）、医師（長野・諏訪中央病院・沖縄・かりゆし病院）、薬剤師、看護師、医療技術職、熊本大学附属病院の医師・看護師など一〇〇人を超える方々が当院で活動していただきました。このような応援をいただいたことで、当院を受診される患者さんへの対応のみならず、阿蘇医療圏

内に避難された多くの住民の皆様に対し、当院に設けられたADRO（阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議）から各避難所に対して、ノロウイルス感染予防、深部静脈血栓予防のケアなどに対応する専門チームが派遣されました。まさに阿蘇医療圏の中心的な役割を担えたのではないかと考えております。

国道五七号線、豊肥本線の開通のめどが立たない現状では、阿蘇地区の医療環境は厳しい状況が継続することが予想されます。今までは救急疾患（脳卒中や心筋梗塞）が熊本へ流出していた状況を地域で完結できるように体制づくりを行ってまいりました。これからは、熊本市内で受診しなれば診療がでなかつた特殊疾患（難病、がん、重症糖尿病など）にも目を向けて当院で対応できる体制を構築してまいります。また医療・介護・福祉に対する横断的な対応ができる体制強化も急務です。当院は名実ともに阿蘇医療の中心（センター）と

して機能していくため、職員一同頑張つてまいりますので、更なるご支援と厳しいご意見をよろしくお願いいたします。

発災直後の経過

2016-4-14（木） 21・26
前震発生 病院内点検 問題なし
DMAT派遣、熊本赤十字病院へ
2016-4-15（金） 通常外来
2016-4-16（土） 1・25
本震発生

職員参集…急患受け入れ対応開始
電源…非常用電源、水…供給可能
急患受け入れ128人、入院18人
他院の透析患者受け入れ開始（最大20人受け入れました）
自宅で人工呼吸器装着患者 3人
避難入院

2016-4-17（日）
DMAT隊 1隊 来院
18時 電源接続（四国電力）
終日急患対応 急患受け入れ87人
入院7人
2016-4-18（月）

9時から通常外来再開（CT、MRI、アンギオ 稼働可能）
当院受診の患者さん、退院通院中の患者さんも受付（処方方は7日に限定）
一般外来数133人、救急患者55人、入院4人

DMAT隊 10隊集結
阿蘇市、小国エリア、南阿蘇エリアの避難所の把握と避難民のアセスメント
2016-4-19（火）
9時から通常外来
一般外来数139人、救急患者35人、入院13人

DMAT隊 33隊集結
ADRO（阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議）を設置
阿蘇市、小国エリア、南阿蘇エリアのアセスメント
熊本県医師会、阿蘇保健所と状況把握

ADRO X-レポート



諏訪中央病院 医師2名/5日間 4チーム



石垣かりゆし病院 医師1名/30日間



熊本大学病院 医師2名/15日間 看護師4人/15日間



2016-4-17 DMAT受け入れ



2016-4-19 DMAT集結 33隊



2016-4-20 災害対策本部設置（阿蘇医療センター内）



ADRO（阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議）

コーディネーション組織の開催（4月23日 星時点の今後の目標）

阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村

阿蘇市 小国町 鹿野村